

## 「パクリクツ」のすすめ

私は、教員になってから「言葉集めノート」のようなものに、自分の琴線きんせんに触れた“いいなあ”と思える言葉・文章を少しずつ蓄えてきました。仕事でパソコンを使うのが日常になってからは、パソコンにもコピーしたり打ち込み、かなりの量になりました。それを時々読み返して、こういう集会で使ったりしています。だから私の場合、私が話のネタに使う言葉などは、「パクリ」というやつかもしれません。

パクリかもしれないが、それもいいじゃないか、と思うようになったきっかけがあります。もう10年近く前、東京芸大の元学長で島根県出身の彫刻家、**澄川喜一先生**の講演を聴いた時です。先生は東京スカイツリーのデザイン監修者でもあり、スカイツリーには日本の橋や塔の構造やデザインが応用されているそうです。講演の中で、自分の仕事は、岩国の錦帯橋や法隆寺の五重塔が原点になっている。それは、言ってみればパクリかもしれない。が、原点をしっかりと消化して、その上で自分の考え・理屈をもって創作したもので、そうなればもう自分のものだ。これを「パクリ」と「リクツ」をひっつけて「パクリクツ」と言う、と仰いました。何気ない一言だったかもしれませんが、感銘を受けた私はそれ以来、自分流のパクリクツに励んできました。

考えてみると、「学ぶ」の語源は「まねぶ」であると言われるように、**先人の叡智に学ぶところからこそ新たな創造が始まる**ものではないかと思えます。ただ**肝心なのは、自分なりに消化して自分なりの理屈を付加できるかどうか**です。

例えば、君たちの課題研究を見ていて感じるのは、課題研究のテーマに「自分ごと」として取り組む姿勢が足りないのではないかとということです。先行研究やネットの記事を引用してただまとめているだけでは、「パクリクツ」までいきません。**学習も、知識・技能をしっかりとパクって(まねて、覚えて)、その上で自分で考えて理屈を加え(思考力・判断力・表現力を働かせ)て使わないと、深い学びとなりません。**

**しっかりとパクって、しっかりと考えてリクツを付けて自分のものにする。**そんな学びのあり方、スタイルの習得を、身近な気に入った言葉のパクリから始めたらどうでしょうか。言葉に敏感にもなれます。

もちろん、パクる材料はどこにでもあります。書物だけでなくテレビでも歌でも他者の言葉でも、自分が**感性のアンテナ**を張り巡らしていれば、いくらでもヒットしてきます。

さて、最近私の琴線を強く揺り動かし、思わずメモしてパクった文章を紹介します。

「人間はそういう風にできている」

高く飛ぶために人は、膝を曲げて下にかがむ。

遠くに飛ぶために人は、後ろに下がり助走を取る。

筋肉を付けるために人は、筋トレによって筋肉細胞を一度壊す(らしい)。

どうやら、

「人間の体が、ある方向に向かうためには、一度反対の方向にいかなければいけない」ようです。

「人間の体はそういう風にできている」ようです。

それと同じように、

人が喜びを体験するためには、辛い体験を乗り越えなければいけないし、

人を笑わせるためには、人の悲しみを知らないといけないし、

人が進んでいくためには、一度立ち止まる必要がある、と私は思っています。

言い換えれば、

**マイナスの体験には、プラスの要素が多く含まれている**、と私は思っています。

私は信じています。

**「人間が、ある方向に向かうためには、一度反対の方向に行かなければいけない」と。**

**「人間はそういう風にできている」と。**

<11月27日「SC便り」小林りょうすけ29-6号>

辛い体験や悲しみ、失敗・挫折。それらを乗り越えて、自分の糧にして、やっとなんか前を進める。それは人間の節理による自然なことなのだ、と納得させてくれる文章です。

この2学期に本校で生じたことの全ても、あなたがたの未来につながっています。プラスに転化して進んでいきましょう。

それでは、一年を無事に終えることが出来たことに感謝しつつ、良い年をお迎え下さい。

### 【澄川喜一(すみかわ きいち) ホームページのインタビュー記事より(抄)】

- ・私は、幼いころから絵描きになることが夢でした。
- ・故郷の橋・錦帯橋をスケッチすることに没頭しました。美しいアーチを描く錦帯橋に魅了され、橋を写生しながら、この橋の成り立ちについて詳しく調べ始めました。このことが今の私の環境造形を手掛ける原点となります。
- ・また、錦帯橋を調べたことから、法隆寺や東大寺といった日本の古い建築についても調べるようになりました。日本独自の木造遺構は汲めども尽きない知恵に溢れ、壮大なスケールの計画に驚き、彫刻家を志すきっかけとなったのです。
- ・「五重塔の反った屋根が天に向かって伸びる雄姿。しかも地震や台風をものともせず1300年もの間、建ち続けているではないか」。塔の中央を貫く心(しん)柱(ばしら)が地震の揺れをやわらげていることも知った。
- ・東京スカイツリーのデザイン監修者となっても、このデザイン思想を通した。「反り」と「起り」は、見る場所によって微妙に反ったり膨らんだりという斬新なデザインに反映された。かつて模型の五重塔の中に込めた心柱も、地震対策として採用された。過去の体験が現代と見えない糸でつながっていた。

<澄川喜一：彫刻家。東京芸術大学元学長。鹿足郡吉賀町(旧六日市町)出身。益田グラントワセンター長>

### 【3年生へ】

センター試験まで、2次試験まで、それぞれの進路実現の日まで、

まだまだ、「さあ、これからだ!」の日々が続きます。自分との戦いの日々ですね。

「応援しています」としか言えませんが、「まだある、もうない」ではなく、「まだ伸びる」です。

最後まで「伸びる・伸ばす」の気持ちで、ガンバリンコ!

### 【平成9年度、3年担任を終えて感じた、高い志望を達成した合格者の特徴】(飯塚のメモより)

- 1、自分の頭で考える学習をしている
- 2、自分の学習スタイルを持っている
- 3、ここ一番の集中力がある
- 4、人の話に耳を傾けることが出来る
- 5、知的持久力・知的探求心がある
- 6、夢や理想、目標を持ち、先のことを考えている
- 7、協調的である
- 8、「絶対に合格してみせる」という信念を持っている

### 【平成9年度、3年担任時の12月に、担任クラスに向けたメッセージ】(飯塚のメモより)

○人間には無限の可能性がある。人間は自らが作ったところのものになる。

「どうせ自分はこの程度」と諦めるな

○学習環境を最大限利用せよ。

教室、先生、友人を積極的に活用せよ

○自立に向かっての、自律が今こそ必要。

生活時間を狂わすな(不規則なペース、授業に集中できない生活はダメ)

生活態度をルーズにするな(一つの妥協が大きな妥協を生む)

○不安を打ち消すのは、練習しかない。

顔つきが変わってくるまで変われ。自分を火事場に置け(火事場の馬鹿力)

○もともと地上に道はなかった。多くの人が歩いた所が道になった。(魯迅)

自分の力で歩かなければ道は出来ない。これと思うことをやってみよ。

○全力で応援します。だが、主人公は君自身だ。

☆「苦しいと感じるところは、新しい場所に踏み出しているのだと、そう信じることにして書く」

(ノーベル賞受賞作家 大江健三郎)

☆「今流さなかつた汗は、年を取って、涙になって流れる」(言霊集より)